

◇2015年度実施の国内修学旅行の実態とまとめ(中学校)〈抜粋〉◇

この調査は2015(平成27)年度に実施された中学校の修学旅行に関するものである。今回の調査では、国内修学旅行実施率は95.2%(前回調査92.9%)と、前回調査より若干上がった。旅行先や実施時期は、ほぼ例年のように戻ったと思われる。また、前回調査から震災の復興を目指し頑張っている東北地方へ目的地を変更した学校がでたり、ニューツーリズムの多様化が広がってきたりしてきた様子が見えてきた。

この調査は、全国の国立・公立・私立等の中学校を対象とし、下表の調査校を抽出し回答を依頼した。

設置者名	国立	公立	私立等	合計
全国校数	73	9,745	735	10,553
抽出校数	73	2,160	735	2,968
抽出率%	100.0	22.2	100.0	28.1
回答校数	16	724	142	882
抽出校数に対する回答率%	21.9	33.5	19.3	29.7
全国校数に対する回答率%	21.9	7.4	19.3	8.4

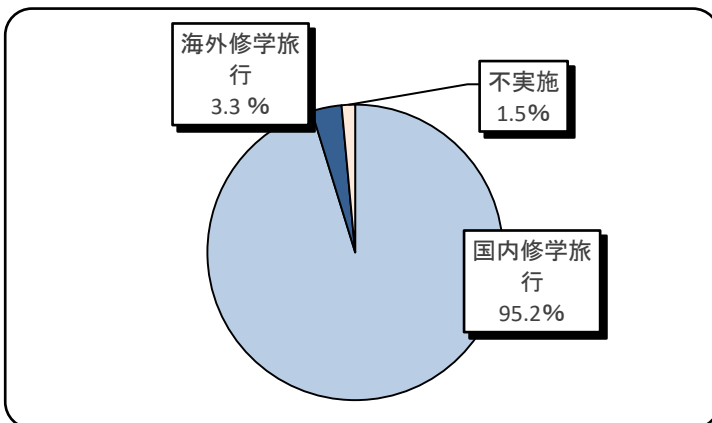
※ 私立の全国校数には組合立校を含む。

調査項目は次の通りである。

- (1)実施状況 (2)不参加生徒の有無と理由 (3)実施時期 (4)実施学年 (5)保健指導のための引率
(6)旅行費用 (7)主な交通手段 (8)旅行内容「重点をおいた活動、旅行先、宿泊地・宿泊形態、見学先等」
(9)班別自主行動 (10)体験学習 (11)防災(避難)訓練の取り組み (12)アレルギー対策

ここではその一部を抜粋して紹介する。なお詳細についてはデータブック教育旅行年報をご覧ください。

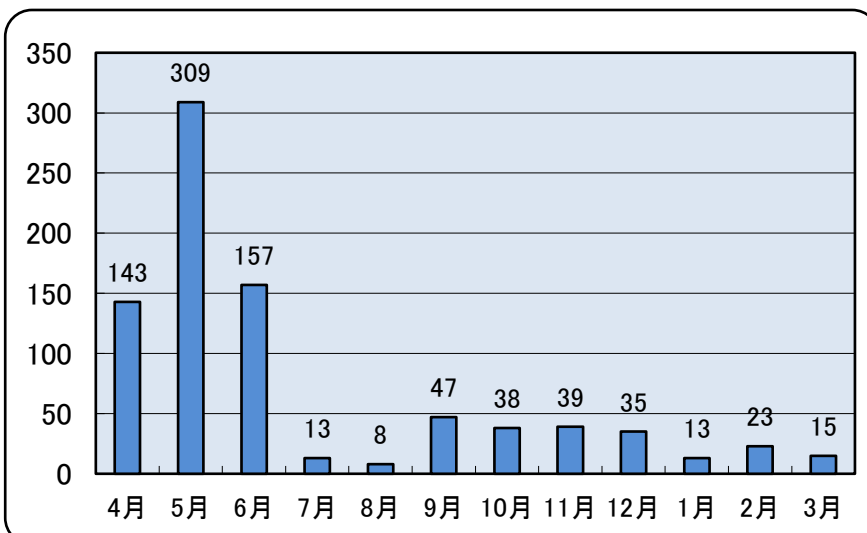
1 修学旅行の実施状況



回答のあった海外修学旅行も含めた実施率は98.5%で、前回97.3%より若干上がった。

また全体では、海外修学旅行の実施校の割合が前回調査より1.1ポイント下がった。今回調査では、全体に対して私立の割合が減ったことも要因となっている。

2 修学旅行実施時期



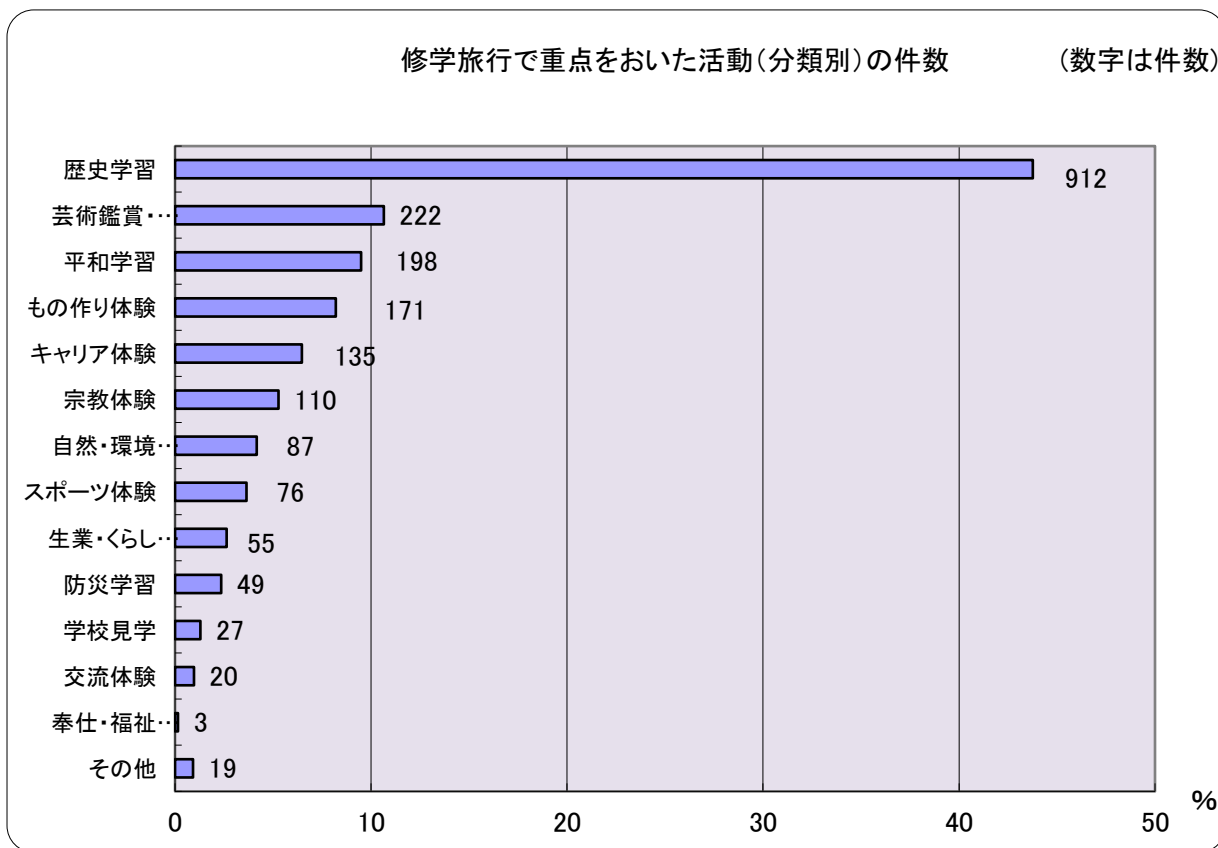
公立は、4・5・6月実施が79.1%(前回調査75.5%)で公立全体の3/4を占めている。

特に6月が3.2ポイントの増加が見られた。

また、3学期に実施している公立中学校は、すべて2年生で実施している。

私立は、9月から11月の秋の実施が全体の40.9%と多い。

3 分類別旅行内容



修学旅行で重点をおいた活動や目的が何であったかを割合に表した「修学旅行で重点をおいた活動(分類別)の件数」としてグラフに示した。

その中で、史跡・町並み・産業遺産・博物館等の見学などの歴史学習に重点をおくものが43.8%(前回調査43.4%)と毎年1位を占める。ミュージカル・演劇・歌舞伎・文楽・能楽等の鑑賞、伝統文化・伝統芸能や祭り体験、美術館等の見学、コンサート・音楽鑑賞などの芸術鑑賞・体験が10.7%(前回調査11.2%)、平和学習が9.5%(前回調査10.7%)、伝統工芸・料理・食品加工などのもの作りが8.2%(前回調査8.0%)となった。また、職場訪問・職場体験、販売・商業体験などのキャリア体験が6.5%(前回調査5.9%)、野外活動・環境学習などの自然・環境学習の分野が4.2%(前回調査4.8%)、スポーツ体験が3.6%(前回調査3.8%)となった。宗教体験(座禅、法話、写経等)は5.3%(前回調査3.5%)で前回の8位から6位に上がった。



三陸鉄道「震災学習列車」(岩手県)
(画像提供: 公益財団法人岩手県観光協会)



パラグライダー(阿蘇ネイチャーランド、熊本県)
(画像提供: 阿蘇温泉観光旅館協同組合)

4 旅行先ベスト20

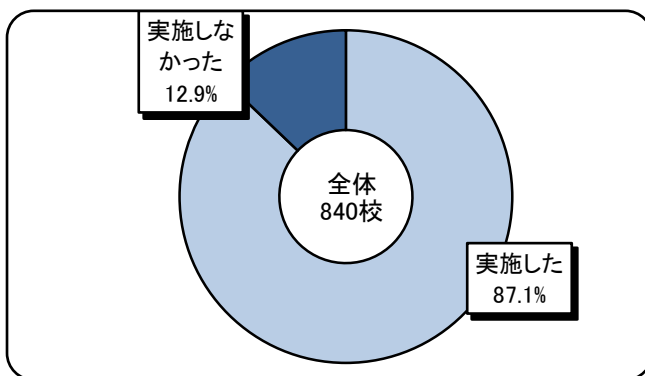
順位	旅行先	件数	構成比%
1(1)	京 都	366	19.9
2(2)	奈 良	321	17.5
3(3)	東 京	237	12.9
4(4)	千 葉	212	11.6
5(5)	大 阪	120	6.5
6(6)	沖 縄	79	4.3
7(9)	神奈川	71	3.9
8(7)	長 崎	66	3.6
9(8)	福 岡	55	3.0
10(11)	兵 庫	38	2.1
11(10)	広 島	36	2.0
12(12)	熊 本	32	1.7
13(13)	北 海 道	22	1.2
14(14)	山 梨	20	1.1
15(20)	長 野	17	0.9
16(18)	静 岡	16	0.9
17(18)	鹿 児 島	15	0.8
18(15)	岩 手	14	0.8
19(15)	佐 賀	11	0.6
20(23)	滋 賀	9	0.5
その他		77	4.2
合 計		1,834	100.0

カウント方法は、滞在時間に関係なく、例えば滞在が半日であっても、2日であっても、初日と3日目であっても、行った旅行先を「1」としている。その中で、今回調査で上位については大きな変動は見られない。6位までは前回調査と同じ順位になった。大きな変動として、長野が前回20位から今回15位、静岡県が前々回23位、前回18位から今回16位に上がったこと、鹿児島県が前々回24位、前回18位から今回17位に上がったことがあげられる。

一方、震災の復興に向け頑張っている東北地方では岩手県18位(前回15位)宮城県22位(前回17位)青森県24位(前回28位)、秋田県28位(前回22位)となった。

※ ()内は前回順位

5 班別自主行動実施率

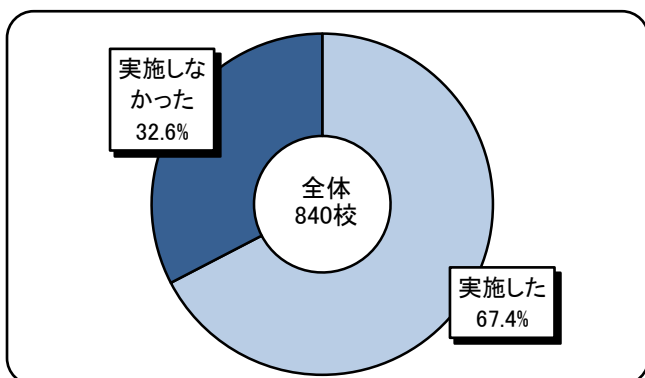


今回も80%を超え、全体で87.1%の実施率であった。

参考までに、過去の実績をあげてみると、2009(平成21)年度が76.4%、2011(平成23)年度が82.8%、2012(平成24)年度が80.3%、2013(平成25)年度81.5%、前回2014(平成26)年度86.2%であった。

課題解決に向けた班別自主行動を多くの学校が取り入れたためである。体験学習との関連も含めて、各学校で生徒の実態と目標を的確にとらえて、どのような形態で具体的に何を学習させるべきかを考えていく必要があるだろう。

6 体験学習実施率



体験学習実施率は、全体で67.4%(前回調査60.3%)と7.1ポイント増えており、体験活動は修学旅行における目標達成のための重要な活動ととらえられる。

新しい学習指導要領の改訂の柱として「アクティブ・ラーニング」の充実という方向性が示されている。「課題の発見と解決に向けて主体的・協同的に学ぶ学習」として課題解決型の学習のことで、それに向け、今後修学旅行においても今まで以上に班別自主活動や体験活動の充実を図る必要がある。